

佐野美術館創立55周年・三島市制80周年 記念

加守田章二 天極をさす

展覧会名： 佐野美術館創立55周年・三島市制80周年 記念
加守田章二 天極をさす
会 期： 2021年9月4日[土]～10月17日[日]
会 場： 佐野美術館
開館時間： 午前10時～午後5時(入館の受付は午後4時30分まで)
休 館 日： 木曜日(9月23日は開館)
入 館 料： 一般・大学生1,100円 小・中・高校生550円
*毎週土曜日は小中学生無料 *9月20日(月・祝)敬老の日は65歳以上無料
主 催： 佐野美術館、三島市、三島市教育委員会、Daiichi-TV
後 援： 静岡県教育委員会
協 賛： 伊豆箱根鉄道株式会社
監 修： 益子陶芸美術館
制作協力： NHKエンタープライズ中部

陶芸家、加守田章二

佐野美術館は、2021年9月4日[土]から10月17日[日]まで、夭折の天才陶芸家・加守田章二(1933-1983)の展覧会を開催します。

加守田は京都市立美術大学(現・京都市立芸術大学)で富本憲吉とみもとけんきちに師事し、1959年栃木県・益子で独立。1967年には陶芸家として最初で最後の高村光太郎賞を受賞しました。その後も岩手県・遠野や東京都・東久留米に窯を構えて精力的に活動を続けましたが、1983年に49歳の若さでこの世を去りました。加守田が現代陶芸界に与えた影響は大きく、現在も非常に高い人気を誇る作家のひとりです。本展では代表作約100点を展示し、加守田章二の足跡をたどります。

展覧会のみどころ

天極てんきょくとは北極星のこと。本展の展覧会名になっているこの言葉は、高村光太郎の詩の一節「いくら廻まわされても針は天極をさす」に由来します。

加守田は個展ごとに作風を変容させ、独自の表現を追い求め続けました。益子での独立後に大きな反響を呼んだ灰釉はいゆうの作品、表面に緻密な彫りを施した「曲線彫文まげんちようもん」、赤や緑の色彩も鮮やかな「彩陶さいとう」など、自身からあふれ出る情熱を次々に作品へと昇華させていきました。高村光太郎賞の賞牌しょうはいに刻印された「天極をさす」という言葉は、まるで加守田自身の作陶への姿勢、生き方を表しているかのようです。

本展では、時代ごとの作風の変化を追うとともに、当時を知る様々な人々の証言も合わせて紹介し、陶芸家・加守田章二の魅力に迫ります。

広報用画像

本展の紹介記事等を掲載される場合には、1～8の画像をデータで提供できます。
電話、FAXまたはメールでご連絡ください。

※画像掲載をする場合、作品クレジットの明記をお願いします。



1.



2.



3.



4.



5.



6.



7.



8.

1. 曲線彫文壺 1970年 岐阜県現代陶芸美術館蔵 写真提供: 益子陶芸美術館
2. 彩陶壺 1971年 個人蔵 写真提供: 益子陶芸美術館
3. 壺形彩陶 1971年 益子陶芸美術館寄託 写真提供: 益子陶芸美術館
4. 曲線彫文花瓶 1970年 益子陶芸美術館蔵 写真提供: 益子陶芸美術館
5. 彩陶長方皿 1971年 京都国立近代美術館蔵 写真提供: 益子陶芸美術館
6. 壺 1976年 個人蔵 写真提供: 益子陶芸美術館
7. 炆器面瓶 1969年 益子陶芸美術館蔵 写真提供: 益子陶芸美術館
8. 彩色壺 1972年 個人蔵 写真提供: 益子陶芸美術館

お問い合わせ

佐野美術館 広報グループ 深沢・西脇

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43 TEL 055-975-7278 FAX 055-973-1790

URL <https://www.sanobi.or.jp/> EMAIL koho@sanobi.or.jp

※新型コロナウイルス感染症の今後の状況により、展覧会の変更する場合があります。